

これから妊娠を考えている人へ

ときざわレディースクリニック 院長
時 澤 俊 也 先生

昨年産婦人科学会は「1年間避妊することなく、妊娠の成立をみない場合」を不妊と定義しました。妊娠率に一番影響するのは女性の年齢です。女性が38歳を過ぎると妊娠率が下がりはじめ、42歳を越えるとかなり妊娠しづらくなります。当然、年齢が高くなれば妊娠するまでの期間は長めになるのですが、それが当たり前だからといって待っていると大切な時期を逃してしまうことにもなりかねません。

35歳以上の人には半年間チャレンジしてできなかつたら検査を始めてみることをお勧めします。基本的な検査・治療には健康保険がききますし、自己負担分にも太田市には助成制度（年度5万円まで、5年間）があります。体外受精・顕微授精などにはこれとは別に年度に2回、それぞれ10万円まで、これがやはり5年間あります。県には体外受精などに対しての助成金がありますが、所得制限や年齢制限などがあります。

お子さんを考えている人は風疹の免疫があるかどうかを調べておきましょう。妊娠早期に妊婦さんが風疹にかかると、「先天性風疹症候群」といって、高い確率で赤ちゃんに心臓奇形などが起きます。風疹の免疫があるかどうかの検査には健康保険がききませんが、それほど高額ではありません。また県には風疹抗体検査助成制度があります（いろいろな条件があるので注意）。

風疹の十分な免疫がない人にはワクチンを打ちます。風疹ワクチンは「生」ワクチンのため、1ヵ月避妊した後に接種して、さらに2ヵ月避妊になります。太田市には大人の風疹予防接種一部助成制度があります。平成17年4月2日生まれ以降の人は原則対象外ですが、個々の相談にも応じているそうです。

また昭和54年4月1日生まれ以前の男性も抗体価を調べたり、ワクチンを接種したりすることをお考えください。おとし風疹が流行してしまったのは、多くの男性に十分な免疫がなかったせいですので。